



第74回文化庁芸術祭大賞受賞

人形劇団クラルテ

作 近松門左衛門

女殺油地獄

おんなごころし
おぶづらのあざやく

演出・脚色 (脚色)
吉田清治
ふじたあさや

人形美術 吉田清治・永島梨枝子
舞台美術 永島梨枝子
作曲 藤原豊 (東京音楽大学)
照明 永山康英
舞台監督 松原康弘

生演奏 岡崎泰正 (三味線・ギター)

Mike Oshida
ILLUSTRATION
WORKS

ふじたあさや

近松は、人物の中の矛盾を掘り下げ掘り下げ、人間の割り切れなさに辿りつき、これまでにない人物像を作り出した。今読むとそれは、三百年後の観客の想像力に訴えながら、観客を矛盾の谷間に引きずり込んでいく現代演劇に通じるものがある。

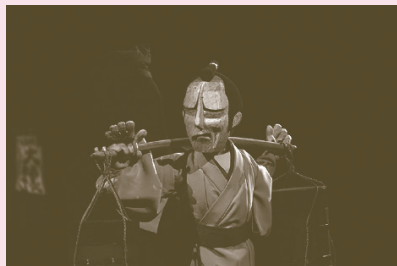
吉田清治は、近松の浄瑠璃を近代的なドラマとしてとらえ直す一方で、近代人形劇のデフォルメのきいた人間造形をもって、近松のこの人物像を表現しようとした。そうさせたのは近松の描いた、この作品独自の人間描写である。内側に矛盾を抱え込み、噴出孔を求めて感情がたぎっている顔、演ずべき役割をすでに演じ始めている顔。吉田清治が造形したこれらの首 (かしら) たちは、『女殺油地獄』にこそ相応しい。

2019年パンフレット「生まれたのが早すぎた二人の天才」より

1721年享保6年5月4日に実際に起った事件を近松が取材した執筆。
23歳の青年が金のために犯した衝動強姦殺人事件。
親の本音を知ったことで、改心し、罪もないお吉を殺害し大金を奪ったという、
身勝手で、矛盾に満ちた与兵衛という人物。
300年後の今、現代人はどう見るのか。
歌舞伎では、油まみれになって与兵衛がお吉を殺害する段で終わるのが一般的であるが、クラルテは近松に忠実に、強姦殺人を犯した与兵衛のその後も遊郭通いを続け、お吉の三十五日の法要に何食わぬ顔で加わり逮捕される(命豊島屋の段まで上演)300年前とは思えない現代に通じる人間の身勝手さ、弱さが見えたと同時に人の愛と情けが悲しみをさそふ。

南無阿弥陀仏!

金払うて男立てねばならぬ 死んでくたされ



〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋3-1-7
☎06-6685-5601 FAX 06-6686-3461 AM10:00~PM5:30 (日・祭休み)

http://www.clarte-net.co.jp
E-mail:office@clarte-net.co.jp